

受賞記念講演

10月16日午前10時から 朱鷺メッセ・マリンホールにて 各受賞者による記念講演が開催されました。古泉財団理事長の開会の辞の後、受賞者の講演がスタート。

講演要旨

食の新潟国際賞・本賞

ジョゼット・シーラン氏

前 国連世界食糧計画(WFP)事務局長、現 世界フォーラム副会長

今日も10秒に1人、飢餓で子供が死んでいます。毎年何万人もが、予防できる原因で亡くなっているのです。医学誌「ランセット」に、飢餓が脳に悪影響を及ぼす原因であることが明らかになったと紹介されました。

子供は満2歳までに きちんと栄養が与えられないと脳の発達が阻害され、その後 機能が元に戻ることはありません。 2歳までが非常に大事なのです。

その取り組みの1つが、パキスタンへのひよこ豆の配布です。 ひよこ豆は栄養価が高い。 が入った袋は口をキュッと絞れば 水がなくても 子供たちでも簡単に口に出来ます。

日本は食糧支援で 世界トップ3に入っています。食糧問題は人間の安全保障に関わります。世界のリーダーが協力して行わなければならないのです。

食の新潟国際賞・佐野藤三郎特別賞

梅林 正直 氏

三重大学 名誉教授

私はタイ北部の山岳地帯「ゴールデンライアングル(黄金の三角地帯)」と呼ばれる地域で、麻薬の原料となるケシに代わる果樹の植樹ボランティアを行い、今年で18年になります。

古泉財団理事長の開会の辞



ジョゼット・シーラン氏



当時 ケシ畑の撲滅は国際的な問題になっていましたが、タイ政府も日本政府も、そんな危ない場所へ専門家を送ることができなかった。

私は大学を定年退職し、新しい人生をどうするか考えた時、誰も行かない 援助しないような所で「1人ぼっちの木の根運動」をしようと 自費で現地調査し、梅の苗木を寄贈、植樹しました。

300本の苗木から始め 今では梅が 2万2000本、マナオが1万8000本になりました。

いろいろなことがありましたが「ケシを消しに来たけしからんヤツは消してしまえ!」というマフィアの危険に対し注意しながら活動しています。

命ある限り この活動を続けていきたいと思っています。

食の新潟国際賞・21世紀希望賞

ンネメカ・C・イケグオヌ氏

スモールホルダーズ財団事務局長

小規模農家の多くは 一生懸命働いているのに非常に貧しい。

それは様々な知識が欠けているからで、強化するためにはスキル、科学が必要です。

そこで2007年に小規模農民のためのFM局を立ち上げようと決心しました。

供給について教育をするとともに、日々の市場状況を伝えています。 また 若者の農業従事も支援しています。

ナイジェリアは広大な耕作可能地があるので、そこに学校の菜園をつくり、そこで得た利益で自宅に菜園をつくる。

最終的には若者が農業を通じて、自立することが目標です。 これには「農業=ビジネス」という考えが必要です。

このような指導の結果、卒業生 1615人が自宅で菜園を始めました。

ナイジェリアに ぜひ訪れてください。 我々がやっていることを その目で見て、そして 我々を助けて下さい。

梅林 正直 氏

